

平成 27 年度 3 回 八王子市社会福祉審議会地域福祉専門分科会

日時・会場	平成 28 年 1 月 25 日(月) 15:00～17:00 八王子市役所本庁舎 701 会議室
出席者	委員 大福 族生、大山 博、菊谷 文男、北井 純子、小室 崇司、添田 繁實、森 秀三、和田 清美
	市職員 豊田福祉部長、辻井福祉政策課長、平塚子どものしあわせ課長、荻原生活自立支援課長、木内健康政策課長、高橋地域医療政策課長、椿山高齢者いきいき課主査、永松障害者福祉課主査、渡邊協働推進課主査
欠席者	安藤 高夫、古川障害者福祉課長、田中生活福祉総務課長、岩田協働推進課長、
関係者	尾寄ボランティアセンター所長
傍聴	1名
次第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 報告事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) 次期地域福祉計画策定に向けたアンケート調査の実施について 3. 議題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 地域福祉推進拠点について (2) その他 4. 平成28年度の会議日程について 5. 閉会
公開・非公開の別	公開
傍聴人の数	なし
資料	<p>【①-1】次期地域福祉計画策定に向けたアンケート調査の実施について</p> <p>【①-2】八王子市地域保健福祉計画改定に係る市民への意識調査 (前回アンケート調査票)</p> <p>【①-3】アンケート結果(クロス集計等) ～第2期地域福祉計画資料編より</p> <p>【②-1】地域福祉推進拠点 事業推進に向けて</p> <p>【③-1】支えあいネットワーク事業の成果・報告</p> <p>【③-2】「地域福祉推進の課題とその解決策」のワークショップのまとめ</p> <p>【参考資料①】平成26年度生活支援コーディネーター(地域支え合い推進員)に係る中央研修</p> <p>【参考資料②】地域福祉推進に関する提言2015</p> <p>【参考資料③】「年金だけでは生活できない」(朝日新聞 平成28年1月12日付)</p>
会議の要旨	
1. 開会	豊田福祉部長より挨拶
2. 報告事項	<p>(1) 次期地域福祉計画策定に向けたアンケート調査の実施について 事務局より概要を説明。</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 平成29年度に次期地域福祉計画の策定を予定しており、その前段階として、平成28年度は市民に対するアンケート調査を行う予定であり、予算要求をしている。今現在の八王子市をとりまく状況を把握し、次期計画策定の際の基礎資料とする。 ✓ スケジュールは前回 平成23年度実施のアンケートと同様とする予定である。 <ul style="list-style-type: none"> ～8月頃 調査項目決定 10～11月 調査実施 ✓ 調査項目は、経年の変化を捉えるため、前回の調査項目を基本とする予定。ただし、5年が経過しているため、項目の一部変更の可能性はある。調査項目数については、多すぎ

- ると回答者の負担が増えるため、適正な数としたい。
- ✓ 今回、地域福祉計画と保健医療計画と合同で行うかは、検討中である。

主な質疑・意見は以下のとおり

- 集計の際、6圏域ごとに特徴がつかめるように出来ると良い。
 - ↳ 前回は事務所圏域ごとの分析を行った。圏域ごとの分析も検討する。
- 自由記述について、“意見”だけでなく、“困りごと”も追記してはどうか。地域の課題が見えるかもしれない
- 配布数が3,000通とのことだが、適正な数か。また、若年層の回答が増えると良い。
 - ↳ 配布数は適当であると考え。配布の方法について検討する。
- “かかりつけ医”“今後充実を望む医療”等、分かりにくい。
 - ↳ 言葉の意味等、分かりやすさについても改めていきたい。
- 健康状態についての項目では設問の意図が分かりにくい。また、“健康状態”ではなく病名や既往症を問うものの方が良いのではないか。
 - ↳ 自身が自覚している症状と、医師から客観的に診断されている症状をそれぞれ把握し、他の項目とクロス分析を行うための設問である。
- 地域包括ケアシステムにおける医療との連携や、事務、生活支援コーディネーター、認知症の問題を取り入れてほしい。

3. 議題

(1) 地域福祉推進拠点について

事務局より、主に実施主体と設置整備計画について説明。

実施主体

- ✓ 地域福祉推進拠点は、社会福祉協議会の「いきいきプラン八王子」だけでなく、市の「地域福祉計画」とも密接に関連するものであり、地域福祉計画の“めざす姿”の構築を目標としているものである。
- ✓ “車の両輪”として、社会福祉協議会と市の協働事業として位置付け、共に事業の推進を図る。
- ✓ 具体的には、市としては、整備予定地の確保や、事業費等の補助等、市の“強み”を活かし、パートナーとしてこれまで以上に関与していく。

設置整備計画

- ✓ まず第一段階として、市内全域をカバーすることを目指す。設置場所に偏りがなく、全域に展開する。
- ✓ 第一段階では、第2層生活支援コーディネーターの圏域に準拠する。
- ✓ その後、第二段階として、各日常生活圏域に設置することを目指す。
- ✓ 設置場所については、既存の市施設への設置を基本とし、今後は他の方法も積極的に取り入れていく。

主な質疑・意見は以下のとおり

- 1か所あたりの予算は。
 - ↳ 人件費は社協補助の中にはいるが、ハード整備費は設置する施設により異なる。
- コミュニティソーシャルワーカー(CSW)は、社協に何人いるのか。もっと活動を活性化させた方が良いのでは。
 - ↳ 社協職員全員はCSWに位置付けられている。拠点には職員1名が常駐、ほかボランティアと協力して運営している。また、他制度や人材を活用しながらサービスを提供していきたい。
- 第1層生活支援コーディネーターは何人いるのか、今度、どのように展開していくのか。
 - ↳ 市域全体として第1層は1名、高齢者福祉課職員として配置。順次、日常生活圏域

に配置予定。平成28年度は市内を6圏域に分け、第2層を6名配置予定である。

- CSWやコーディネーターには、縦割りではなく、地域住民への仕掛けづくりをし、住民主体の地域を作してほしい。それには福祉だけでなくマネジメント能力も必要である。マスメディアでも多く取り上げられており、精力的な活動を望む。
- 具体的な活動や実践方法を示してほしい。
- 訪問ふれあい員など、既存の立派な制度がある。社協にはそうした人材ともしっかり連携してほしい。また、社協の人材も確保する必要があるのではないかと。
 - ↳ 拠点は市長公約となったこともあり、しっかり対応していきたい。
- 予算に限りがある中ではあるが、人材育成に取り組むべきではないか。また、他の既存の団体の資源を活用すべきではないか。

(2)その他

①森副会長より、長房における見守り活動について経過報告。

✓ 今年は孤独死が3件発生してしたが、“ヒヤリ・ハット”で命を取り留めた方が2名いる。成果は上がっている。

✓ 他の団地・町会でも取り組みが広がっており、今後も活動を継続していく。

②大福委員より、「[活き生きハンドブック](#)」完成の報告。

③大山会長より、平成27年12月17日開催のワークショップについて報告。

✓ 今後も、インフォーマルな形式で開催する

4. 次回の日程 平成28年7月27日の予定

5. 閉会

議事録署名人

森 秀三

平成28年 9月13日